

6月の有峰の昆虫類

令和4年6月29日

有峰は県内で有数の昆虫の宝庫です。有峰で確認された昆虫類は、約2700種にのぼり富山県内で記録されている昆虫の約半数にもあたります。既に代表種としてギフチョウ、エゾハルゼミを紹介しました。今回は、ヒメアアメンボとオナガミズアオについて紹介します。

ヒメアアメンボ

【分類】カメムシ目アメンボ科

【学名】*Gerris laticollis*

【和名】ヒメアアメンボ

【分布】北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島（中之島以北）

【形態】体長（成虫）8.5～11mm

【生態】池、水田、水たまりなど、いたるところで見られる小さなアメンボ、脚に毛がはえていて水をはじき、表面張力を利用して水に浮くことができます。水面にほかの昆虫などが落ちると、すばやく集まってきて体液を吸ってしまいます。旧有峰ハウスの広場の水たまりで発見しました。水面に落ちたヒメギスの幼虫にヒメアアメンボの成虫と幼虫と、水面下には、マツモムシ (*Notonecta triguttata*、左上) も集まってきました。食物連鎖の一端を垣間見ました。



水面に落ちたヒメギス幼虫に集まり
体液吸汁中のヒメアアメンボ（6月23日撮影）

オオミズアオ

【分類】チョウ目ヤママユガ科

【学名】*Actias aliena*

【和名】オオミズアオ

【分布】北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部

【形態】大型の青白色をしたガで、成虫の開帳は80-120mmほど（♂80～110mm、♀85～120mm）。前翅は三角形にとがり、後翅は後方に伸びて尾状になります。前翅と後翅にはそれぞれ中央に丸い斑紋が1個ずつあり、触角は櫛歯状で、雄でははっきりとよく発達します。越冬態：蛹（繭）

【生態】幼虫の寄主植物は、有峰ではウワミズザクラなどのバラ科、ブナ、ミズナラなどのブナ科、ヤマハシノキなどのカバノキ科と考えられています。

6月18日夕方、地上30cm程のサワグルミの枝先で静止中の羽化後の♂個体を発見、観察、撮影しました。有峰は標高1000～1300mの寒冷な高原盆地のため、化性は年1化と考えています。有峰では、6月上旬から8月上旬に出現します。



サワグルミの枝先で静止中のオオミズアオ♂羽化個体
（6月18日猪根平にて夕方4時頃撮影）

【参考文献】

1. 「トヤマの自然」第19巻第3号（秋の号）、1996
2. 福田晴夫他、昆虫の図鑑 採集と標本の作り方、南方新社
3. 岸田泰則編 日本産蛾類標準図鑑Ⅰ、学研